

市政ウォッチング・市民会議 傍聴報告(要旨)。

() は報告者の注記等。

第2回(21年度)市・特別職報酬審議会

22年2月2日(火)・午後2時1分～2時26分

傍聴者 は2名。5階 会議室にて

14:01 会長 → (委員からの)資料提供などの要望はあったか?

事務局 → なかった。

会長 → 前回、相当(意見は)出ているが、何かないか?

委員 → 先回も言ったが、多くの市民に説明するのに、経済用語だけでなく、わかりやすくしてもらいたい。議員はそれ程下げない(今のままだと)、同様にすべきではないか(職員等と)。20年度の経常収支比率、本市は最悪だ。議員さんもそれなりの減少があってもいいのではないか。事務局に、そうするのは大変ですか、と聞いたら返事はなかった。市民に説明しにくい。何故議員は減少が少ないかを事務局で説明してもらいたい。

会長 → 議員は次期減るのか?。

行政 → 議員には「地域手当」がなく、報酬に一本化されている。今回、たまたま、市長などや職員はこれが下がるが、これはどこ(他の市町村)でも同じことなのでご理解をしてほしい。議員定数は36が32へ。

委員 → 引き下げが同じなら、尾張北部圏での比較はどうかと言えば、経常収支で一番悪いのでは説明出来ない。整合性がない。

行政 → (経常収支が)硬直化(90.2%)していることは事実。それとは連動はしていない。人口規模では比較となる。小牧等より人口多いから。

会長 → 記録に残して、次の参考にしてもらいたい。

委員 → 議員の方々に話し聞くと、引き下げてもよい、と言っている。事務局が硬直的な対応をしている。本市としての弾力性を次回(来年)からは考えてもらいたい。

委員 → 前回同様の意見、現状維持。

委員 → 前回同様の意見、現状維持。しかし、お願いするとすれば、自分の任期が一年なので、地域手当を無くして一本化し、わかりやすい形にした方がよいのではないか。地域手当を来年度以降検討してほしい。

会長 → 地域手当は「退職金に係わってくる(反映しないから)」と言うことですね。

委員 → 現状維持でいい。議員の件、いろんなことを勘案し、平成19年度より触っていない。地域手当は、一般市民にわかりにくい。議員には無い。良い悪いではなく、検証していくべきだ。

会長 → 本市職員は外へ行くことはない(国の職員と違って)ので、市民にはわかりにくいのかも。民間では、物価手当とか、家族手当とかの形でやっている。議事録に載せて今後検討する必要がある。

委員 → 現状維持でいい。

会長 → これまでの声では、据え置きだが。

委員 → 多勢に無勢だが、皆さん、紳士で何もおっしゃらないが、議員の中には、政治家でなく政治屋になっている人がいる現状がある。政治家としてやってもらうためには、報酬の検討が必要。皆さんが言われないので 敢えて言わせてもらった。

会長 → ケローナでは、市長もボランティアの部分のほうが多い。ビジネスの部分のほうが多い。どちらがよいのか？。政治家、政治屋への見方はいろいろあるが、選挙で直していくしかないのではないのか。いろいろ出た が現状維持でご理解を。出たご意見(地域手当についての)を議事録に載 せてもらいたい。結論としてはそれでいいか？

委員 → (特に声なし)

会長 → 答申案は事務局で作り、委員で確認、郵送で、進めるがよいか。その後私が市長に届けたい。答申の日程が決まったら伝える。

委員 → (特に声なし)

行政 → 前回の議事録、原案どおりでよいか。

委員 → 異議なし。

14:26 終了。

市民の視点からの コメント

※ 前回、「もう一回やる必要あるの?」というような声もあつた中での第2回目の本日の審議。委員からの資料の請求もないなかで、意見が出ないので、会長(議長)が順番に指名して発言をしてもらう始末。市長の諮問が「提案」もなく、ただ、検討してください」というのでは、意見も出て来ないのは当然であろう。明確な、市長の「方針」があつて初めて審議が出来るのではないか。

※ 低調な論議であつた。形式的に「会議」を行い、「お墨付きをいただく」だけの会議。ある種の「出来レース」と言われても仕方がないであろう。市民の声はどのようにして反映されるのであろうか? せめて、全市民の「アンケート」くらいとるべきでないか。